信　条
本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。
（会則第3条）

法政大学社会学部
同窓会報
Vol.30

法政大学社会学部同窓会
発行人　鹿山　秀佳（同窓会会長）
編集人　伊藤　正義（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学3号館（図書館・研究所棟）5階
TEL・FAX　042－783－2421
http://www.houseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140－1－63762

教授会執行部との懇談会開く
3学科・カリキュラム改革の新ステージ

写真左から右へ、教授会の堀川三郎副主任、増田正人、藤田真文主任、壽福眞美学部長。同窓会の鹿山秀佳会長、濱名達副会長、土屋幸雄理事、横舘英雄副会長。　撮影は伊藤正義副会長。社会学部棟11階会議室にて。

期待される7コース・8プログラム制
好評な「仕事と学問」「就職セミナー」

去る5月22日（火）、多摩キャンパス社会学部棟11階の会議室において、恒例の懇談会が開かれ、昨年4月スタートした新カリキュラム（7コース・8プログラム＋SA）一年目の状況を中心に話を聞いた。教授会からは壽福学部長、藤田、増田両主任、堀川副主任、同窓会からは鹿山会長、伊藤、濱名、横舘副会長、土屋理事が出席した。

相互協力を確認
ゼミOB会の誘導

まず、同窓会からは、組織の現状について、3万人以上いる卒業生のうち会費を納めているのは7百人弱、少ないようだけれど今までで一番多いこと、09年に創立20周年になるので総合的に学生・教職員・同窓会の更なる協働を検討している。教授会の先生方にもご協力いただき、また退任された先生方にも呼びかけるご協力を要請。また、同窓会には参加しないが、ゼミのOB会には出るという人がかなりいるので、これを同窓会の方にも誘導出来ればと協力を要請した。

さらに、定着してきた「仕事と学問」「就職セミナー」の違いと役割について、文書にして教授会メンバーに伝えたい、とお願いした。これに対して学部長から学生用印刷機の購入その他同窓会には援助を受けていることへのお礼があった。「仕事と学問」、「就職セミナー」は学生には好評で、前者はある分野のトップランナーの話で同窓会が教育の役割を果たしていること、後者は卒業生が活躍している様子を知るもの、というように学生は理解していること、ゼミと同窓会の結び付きが弱いのは教員の方に問題があるのではないか、繋げる努力が必要との話があった。

自由な履修計画
SAを機に留学

この新カリキュラムは学生が自身の興味や関心、また将来の職業選択を視野に自分にあった履修計画を組み立てられるようになっている。学生にとって自由度の高いカリキュラム。またこの新カリの特徴は語学、特に英語教育の充実で、4月に単位認定テストを行い、80名前後が英語の必修を免除されて、いきなり英語中級プログラムに入る。そして英語圏を中心としたスタディ・アブロード（SA）ではアメリカ、カナダ各2大学へ半年間コースが13名、一年間が2名留学した。

もう一つの特徴は社会調査、メディア実習、コンピューター実習などの実習系の科目が多いこと。地域に出て学ぶ機会を増やし、さらに教室に戻って学ぶ、そのプラスの相乗効果を期待しているとのこと。

20周年を節に
学・教・同の協働を

7コースのうち人間・社会コースを主専攻にしたものが772名のうち205名（26・5%）、メディア社会コースが181名（23・4%）と他のコースを大きく上回っている。

またメディア・リテラシープログラムを副専攻としたもののうち、メディア文化コースを主専攻にしたものが179名のうち116名（64・8%）と6割を越えている。このため実習クラスを増やさざるを得なかった。選択の自由度が高いためで、注意していかなければいけない。

自由な選択が可能
賢明なバランス感

コースやプログラムの選択で学生数に偏りがあるが、学生一人ひとりの履修科目の内容を見ると、理論系と実習系、異分野にまたがる選択など、バランス感が見られる。社会調査実習にメディア・リテラシープログラムの学生が多い、など、単に技術だけでないものを求めていることが窺える。つまり、ダブルメジャー志向である。また、政策科学科の公務員プログラムでは、個人事業主の子弟に、単に家業を継ぐというだけでなく、どういう視座で町づくりをするかという視点をもっているものがいる。新カリは学生にとって選択の自由度が高いだけに、果たして学生にできるだろうか、心配していた。

一年生の秋にコース・プログラムガイダンスを十分に行い、登録までに時間をとった。その結果、当初心配したよりは、学生はよく考えてくれた。

社会学を軸にした
総合社会科学部

わが社会学部は、中央労働学園以来の伝統で、社会学を中心にしながらも、経済学、法律学、心理学、宗教学、哲学など社会学を軸にした総合社会科学部となっている。スタッフやカリキュラムにそれが表れている。こういう学部はあまり例がないのではないか。これをさらに発展させていきたい。今後、学生のニーズによっては変わることもあるかもしれないが、まだ不定形。新カリキュラムは、いわば形をつくりながら前進する進化途上人。同窓会の人も注目して、時には注文や示唆をいただき、見守ってもらいたい、との壽福部長の話があった。これに対して、新カリキュラムは学生の主体性を育てるようなカリキュラムになっている、ということですね、と鹿山会長が応じた。（濱名）

名誉教授登場

土生　長穂（はぶ　ながほ）

よき師、土生長穂名誉教授を新年度活気に満ちた市ケ谷ボアソナードタワーに迎え、教え子、61年度卒の中山重臣と67年度卒の豊田利明と共に伺う。

気になる憲法九条改憲
ブログで交流の場設定

―一昨年喜寿を迎えられました。お元気そうですね。現在の生活スタイルは？

土生―家内が6年前に亡くなって、国立の自宅で一人暮らしをしています。健康のことを考え、環境と風景に恵まれた国立の街を一時間ほど歩くことにしています。研究というほどのことはしていませんが、最近の中東問題とりわけイラク戦争をめぐる諸問題について本を読んでいます。また、最近の中南米諸国の変化についても関心を持ってます、―土生ゼミOB会は、活発に開催され、活動されていると伺っておりますが。

土生―OB会は、20年以上も前から2～3年に一度開かれてきました。毎回100名を越えるOB・OG諸君が参加しております。昨年も富士見校舎の教職員食堂でOB会を行ったところ、多数の諸君の参加があり、お子さん連れのほほえましい参加や各方面で活動されている方や定年後も元気に活動されている諸君の参加に喜んでいます。それ以外にも、各年代ごとの集まりも盛んに開かれています。昨年の4月から、ゼミOB会のホームページにブログを開いて、OB・OGとの交流を書き留めたところ、一年間で結婚式など個人的な集まりを含めると20数回記録されました。退職後もOB・OG諸君との交流の場を持つことが出来て、楽しんで生活しています。

―土生先生は千名を越えるゼミ生を送り出していますが、ゼミ生に一言。

土生―ゼミOB会のホームページで、毎月その時々に考えたことをOB・OG諸君には伝えていますが、最近一番気にかかっているのは、日本が急速に右傾化していることです。憲法とりわけ9条を変えるための国民投票法が成立して、3年後には改憲をという動きが着々と進められています。また、現憲法下では集団的自衛権を認めさせようとしています。日本は先の戦争で日本人にもアジアの諸国の人々にも大きな被害を与えました。政府は、そのことを棚上げにして、日本を再び戦争が出来る国にしようとしています。毎日の生活に忙しく流されているとんでもない事態になってしまいます。私の世代は戦争を知っている最後の世代なので、十分に注意をはらってもらいたいと思っている。（文・豊田、写真・伊藤）

青春の市ヶ谷キャンパスに集まろう！

社会学部同窓会は7月21日（土）に次の催物を開催します。
開場は午後1時からです。

第一部　第19回社会学部同窓会・定期総会
第19回定期総会を会則第6条に基づき下記の通り開催します。
法政大学社会学部同窓会　　会長　　鹿山　秀佳
日　時　7月21日（土）午後1時30分～2時30分
場　所　55年館7階574教室
議　題　①2006年度事業活動報告、収支決算報告承認の件
②2007年度事業活動計画、収支予算（案）承認の件
③役員選任の件
④その他

第二部　定期総会記念・特別講演会
日　時　7月21日（土）　午後2時30分～3時30分
場　所　55年館7階574教室
演　題　『GIスプーン4杯の米粒』より
おじいさん・おじさんの戦争
講　師　滝沢カレン（社会学部教授）

第三部　社会学部卒業生の集い・懇親会
名誉教授・歴代学部長・教授陣の来賓も加わり、交流の輪を拡げます。友人お誘いの上ご参加下さい。
日　時　7月21日（土）　午後3時45分～5時45分
場　所　ボアソナードタワー　25階会議室B
会　費　5,000円（同伴者3,000円）
JR総武・中央線「市ヶ谷駅」「飯田橋駅」下車徒歩10分
問合わせ・申込み　社会学部同窓会事務局　T&F042-783-2421